広告　企画・制作　LEXUS NEW TAKUMI PROJECT 実行委員会

食卓を美しく彩る「紅型皿」を世界へ

下地　秀樹　沖縄/プロダクトデザイナー

「LEXUS NEW TAKUMI PROJECT」(主催：LEXUS)は、日本各地で地域の独自性や伝統技術を生かし、新しいモノづくりに挑む「匠」を応援する。

レクサスが日本全国の「匠」のモノづくりを応援

本プロジェクトは2016年、放送作家として「料理の鉄人」など多くのヒット番組を手がけ、またくまモンの生みの親でもある小山薫堂氏をプロジェクトのスーパーバイザーに迎え、隈研吾氏(建築家／東京大学教授)、生駒芳子氏(ファッション・ジャーナリスト／アート・プロデューサー)、下川　一哉氏(意と匠研究所)らをサポートメンバーに発足。

昨年度は、52名の匠によるプロダクトが誕生。若き匠の挑戦が刻まれたプロダクトは、ふるさと納税の返礼品への採用や、ロックフェラー家主催のチャリティイベントへ出品されるなど注目を集め、匠自身もTVやwebメディアへの掲載など目覚ましい活躍を見せている。

2年目となった今年は、全国47都道府県から計51名の若き匠が選出。昨年夏、レクサスギャラリー高輪で行われたキックオフ・セッションを皮切りに、サポートメンバーが実際に工房を訪ね、途中経過のプロダクトをうけて行うエリア・コンサルティングを経て、匠は自身のアイデアを磨き、プロダクトの試作に取り組んだ。

1月17日、プレゼンテーションにて

商談会の様子

1月17日に都内で行われた商談会では、百貨店・セレクトショップバイヤー・メディア・デザイン関係者などに向けて半年間をかけて製作した自身のプロダクトをプレゼンテーション。世界へ羽ばたく足がかり、ビジネス拡大のきっかけとなる大きなチャンスを手にした。また、商談会の終盤ではビームスジャパンとのコラボレーション企画「LIFE with NEW TAKUMI ～新しい匠、新しい暮らし～」が発表されるなど、プロジェクトも進化している。

海外のバイヤーも注目

「伝統」を守りながら「新しい」感覚やテクノロジーを吹き込む。「地域」の特性を深めながら、その魅力を「世界」へ広く発信する。LEXUSが掲げる「二律双生」を、地方創生×モノづくりの視点で実現するプロジェクト。沖縄県選出の匠、アヤプランニング株式会社代表取締役の下地秀樹さんのモノづくりへかける思いと完成した作品を紹介する。

スーパーバイザー
小山　薫堂氏

1964年6月23日　熊本県天草市生まれ。日本大学芸術学部放送学科に通う。伝説の深夜番組「カノッサの屈辱」でその名を世間に広め、「進め!電波少年」や「料理の鉄人」など、数多くのヒット番組の企画・構成に携わる。「くまモン」の生みの親でもある。

色鮮やかな紅型とシックな黒ガラスが一体化

沖縄の伝統工芸である紅型を、本革と組み合わせた雑貨やグラスなどにあしらった商品を制作しているアラヤプランニング株式会社。「伝統を暮らしで語り継ぐ」をコンセプトに、自社店舗に加えて県内のリゾートホテルなどで販売展開している。

同社の代表取締役を務める下地さんは、地元の広告代理店勤務を経て観光土産関連の店舗を全国展開する京都の会社に勤務した。そこで京都を代表する友禅染を現代風にアレンジしたモノづくりに影響を受け、沖縄の紅型を使用した雑貨・小物を製造する会社を立ち上げた。〝伝統×革新のモノづくり〟。下地さんのモノづくりはそこから始まっている。

食材の質感を浮き上がらせるシックなたたずまい

下地さんは、紅型を普段の生活の中で使用できる〝器〟にしたいとの思いを胸に、LEXUS NEW TAKUMI PROJECTに参加した。「手染めされた紅型はもちろん、土台となるガラスもすべて手作り。コーティングまで県内で行っている」と話すように、紅型を取り入れた「紅型皿」はメイド・イン・沖縄にこだわった。キックオフ・セッションで小山氏から「沖縄をイメージさせる作品にしてほしい」とのアドバイスを受け、沖縄らしさを追求しながらもユーザー目線でさまざまな工夫を凝らしてきた。

エリア・コンサルティングで来沖したサポートメンバーの川又俊明氏は、下地さんの作品を見て「とてもいい感じで仕上がっている。素材の良さを生かしながらさらにブラッシュアップしてほしい」と期待を込めて激励。

さまざまな試行錯誤を重ねて、下地さんの沖縄に対する熱い思いが込められた作品「TEZOME」が完成した。手染めされた紅型の生地を、ガラスにコーティング加工して皿に仕上げた。「色鮮やかな紅型とシックな黒ガラスが一体化したことで、完全なる紅型皿を謳うことができるようになった」と下地さんは胸を張る。

紅型の絹地がガラスと一体化した「TEZOME」

紅型を県外・海外へと広め、業界を盛り上げていきたい

紅型とガラスの融合により新たな工芸として産声を上げた「TEZOME」は、まず手染めの紅型と土台となる器の制作から始まる。次に器と生地をコーティングし、研磨、乾燥を経て仕上げられる。「紅型の生地を密度の高い絹地に染めることで、ガラスにコーティングした時に絹地が透過する。透明感が出てガラスと一体化した」。紅型をもっと暮らしに近いものにできないものかという思いでスタートを切ったこのプロジェクト。紅型を身近な食器として取り入れることで食卓を美しく彩るだけでなく、爽やかな沖縄の空気が身近に感じられるのも特徴だ。

エリア・コンサルティングの様子

TEZOMEの完成に至る工程を通して、下地さんは多くのことを学んだ。「それまでは、『新しいものを』という考えにとらわれていた。しかし、全国から参加した匠たちの作品を観ることで、自社商品ではなく、作品づくりとしてこのプロジェクトに向き合うことができた。これは大きな成果」。下地さんは、今回習得した商品開発技術を生かして組合に加盟する全工房と手を組み、手染め生地を器にコーティングした「紅型皿展」を開催する準備を進めている。「染め生地は着物離れによる売り上げの低迷が進んでいる。今後は紅型を県外・海外へと広め、県内の紅型工房が伝統の継承を含めた人材育成ができるよう、自分が率先して業界を盛り上げていきたい」と下地さんは気持ちを新たにした。

「仲間たちと紅型皿展を開催したい」と話す下地さん

下地　秀樹
沖縄/プロダクトデザイナー

県内広告代理店の営業勤務を経て、京都に本社のある観光土産関連の直営店を全国展開する会社で勤務。その際、京都を代表する友禅染めを現代風にアレンジしたモノづくり会社に影響を受け、沖縄の紅型を使用した雑貨・小物を製造する店舗を立ち上げる。

LEXUS NEW TAKUMI PROJECT